

CT検査の医療被ばくに関する説明書

★CT検査の必要性(正当化)について



CT検査は放射線を用いる検査であるため、被ばくを伴います。従って検査の必要性が被ばくのリスクを上回ると考えられた場合のみ検査を行います。

被ばくが心配で検査を行わなかったために病気の発見が遅れたり治療のタイミングを逃してしまう可能性があります。納得した上で検査を受けるようにしましょう。

岩手県立一戸病院 医師

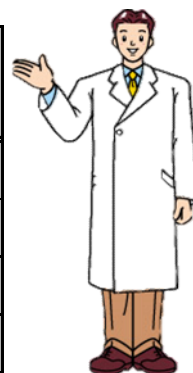
★CT検査による放射線被ばくについて

当院のCT装置は逐次近似画像処理を搭載した機器であり、従来の装置に比べ少ないX線量で同等以上の画質を得られ、被ばく線量の低減に効果を発揮しています。

当装置で撮影した各部位における被ばく線量は^{※1}DRLs2020(診断参考レベル)と比較しても低く抑えられています。

※1医療被ばく研究情報ネットワークの活動によって関連する学協会との協力ののもと、学協会が実施した実態調査の結果に基づいて行ったもの。

撮影部位	DRLs2020 CTDIvol(mGy)	当院の線量 CTDIvol(mGy)	当院の推定被ばく線量 (mSv)
頭部単純	77	59.5	2.17
胸部 1 相	13	10.5	5.66
胸部～骨盤 1 相	16	12.1	13.81
上腹部～骨盤 1 相	18	13.8	10.81



★被ばく線量の最適化について



当院では法令や関連学会のガイドラインをもとに最適な条件で検査を行い、放射線による被ばくを必要最小限にしております(線量の最適化)。

放射線検査・医療被ばくに関して分からないことや不安な事がありましたら、放射線技術科(X線科)までお問い合わせ下さい。



日本人は自然放射線(宇宙や大地、食物など自然から出る放射線)から年間平均2.1mSv被ばくしています。

〒028-5312

岩手県二戸郡一戸町一戸字砂森60-1

岩手県立一戸病院

☎ (0195) 33-3101